

高校生 I C T 2018 Conference

in サミット

社会で活躍するための I C T 活用法 ～ 18才成人化を控えて ～

開催報告書

2018年11月3日（祝）13:00-17:00

【会場】株式会社内田洋行 東京ユビキタス協創広場 CANVAS
（東京都中央区新川 2-4-7 ）

主催

高校生 I C T カンファレンス実行委員会
（構成団体）

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁



2018

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2018 地域開催.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2018 in サミット 開催概要.....	6
4. 主担当.....	9
5. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	9
6. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	10

1. 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2018 テーマ：社会で活躍するためのICT活用法 ～ 18才成人化を控えて ～
主催：	高校生ICTカンファレンス実行委員会 (構成団体) ● 安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、消費者庁、
後援：	一般社団法人全国高等学校PTA連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、 ※地域後援があれば追加
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ディー・エヌ・エー、一般社団法人情報教育研究所、株式会社ラック、グリー株式会社、株式会社サイバーエージェント、LINE株式会社、株式会社インテグラル、エースチャイルド株式会社、Twitter Japan株式会社、株式会社ベルパーク、株式会社メディア開発綜研、アルプスシステムインテグレーション株式会社
協力：	株式会社内田洋行、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、 ※地域協力があれば追加
開催目的：	高校生 ICT Conference は、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012年度は、東京開催を加え計17校79人の高校生が参加し、2013年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて5拠点にて開催し、計51校267人の高校生が参加しました。2014度も同5拠点にて開催し、計44校221人の高校生が参加しました。 2015年度は、石川、長野、神奈川、福岡を加えた9拠点にて開催し、計78校310人の高校生が参加しました。2017年度は、より全国的な規模での展開に向けて、新たに北海道帯広、仙台、静岡、新潟、高知を加えた14拠点にて開催し、計107校476人の高校生が参加しました。 高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高

校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。

【本年開催テーマのコンセプト】

2016年の参議院選挙から18才選挙権がスタートするとともに、成人年齢についても20才から18才への引き下げが暫時検討されてきました。2018年1月第196回国会で、成人年齢を18才とする民法改正案が提出され、これまで20才での成人という常識が、変わろうとしています。未成年者は親権者あるいは未成年後見人の親権に服することとなっており、成人になるということは、親権者の同意なく自身の判断で「契約」行為などを行うことができるようになります。

インターネットが私たちの生活に普及し、スマートフォンなど携帯型端末を持ち歩き、いつでもどこでもインターネットのサービスを利用できるようになりました。一方でクレジットカードやプリペイドカードの普及、仮想通貨の登場など、現金以外での取り引き方法がインターネット上では多く利用されるようになり、手元で簡単に契約行為を行うことが可能になりました。

18才成人化に伴い、いわゆる「大人」とみなされる年齢が引き下げされることに伴い、18才になれば大人としての権利を行使できるとともに、大人としての責任も生じることとなります。ビジネスの世界では、あらゆる産業でICTを活用し、業務の効率化や多様な事業を展開し始めています。今年度の「高校生ICT Conference」では、インターネットのある環境で生まれた高校生が、こうした高度にIT化された社会で活躍するために、どのようなことに注意を払い、どのような能力が必要で、どのようにそれらを身に付けていけばいいかを18才になる高校生のうちに考えておく機会を設けることを目的としました。

※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面実施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。

開催の概要：

【各開催地での内容】 ※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。

- (1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表
(6) 講評 (7) サミット参加者発表

【東京サミット】

- (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表
(5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表

	<p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン）</p> <p>(2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30名（各開催地により変動あり）</p> <p>募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference2018 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） 猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所） 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） 小城 英子（聖心女子大学） 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>安心ネットづくり促進協議会</p> <p>〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 斎藤ビル 2 階</p> <p>TEL：03-3562-8850 FAX：03-3562-1180</p>

2. 高校生 ICT Conference 2018 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

開催地	開催日時	会場
札幌	2018 年 9 月 16 日	札幌ユビキタス協創広場 U-cala(内田洋行)
帯広	2018 年 9 月 17 日	とかちプラザ
宮城	2018 年 10 月 7 日	東北工業大学一番町ロビー
山形	2018 年 9 月 29 日	山形県庁
茨城	2018 年 8 月 22 日	茨城県立青少年会館
神奈川	2018 年 10 月 6 日	学校法人岩崎学園
新潟	2018 年 8 月 20 日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
石川	2018 年 9 月 15 日	金沢大学角間キャンパス
長野	2018 年 9 月 29 日	安曇野市明科公民館
静岡	2018 年 9 月 24 日	専門学校静岡電子情報カレッジ
愛知	2018 年 10 月 21 日	名古屋市中心企業振興会館(吹上ホール)
大阪	2018 年 9 月 9 日	大阪ユビキタス協創広場 CANVAS
奈良	2018 年 10 月 7 日	帝塚山大学奈良・東生駒キャンパスキャンパス
山口	2018 年 8 月 10 日	サビエル高等学校
高知	2018 年 8 月 14 日	高知県立伊野商業高等学校

福岡	2018年9月23日	エルガーラホール
大分	2018年8月26日	九州電力株式会社大分支社 2階大ホール
鹿児島	2018年8月18日	鹿児島大学学習交流プラザ
サミット	2018年11月3日	東京ユキビタス協創広場 CANVAS(内田洋行)
最終報告会	2018年12月14日	内閣府、総務省、文部科学省

東京サミットへは各地域で独自で実施した情報モラル・リテラシー啓発サミットからのオブザーバー参加者を招待。

※福井、沖縄（サミット熟議のみ参加）

3. 高校生 ICT Conference 2018 in サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 101 名の参加者を得て、社会で活躍するための ICT 活用法 ～ 18 才成人化を控えて ～をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【開会の挨拶】 高校生 ICT Conference 実行委員会 委員長 米田 謙三 先生 本日の全体進行役として、高校生 ICT Conference の主旨説明と本日の大まかな流れについてご説明いただきました。</p> <p>【ご来賓挨拶】 総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 消費者行政第一課長 梅村 研 様 テレビやインターネット（スマートフォン）等、メディアの性質の違いに言及しつつ、昨今のインターネット・スマートフォンの特徴や使い方について、高校生自身が議論するのは意義ある取組であり、その内容・結果を学校や家など自身の周囲に持ち帰って広めていただきたい、とのお話をいただきました。また、サミット当日の議論に当たって、緊張せずに、楽しみながら議論してほしいとお言葉をいただきました。</p> <p>文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課長 三好 圭 様 今年の「社会で活躍するための ICT 活用法～18 才成人化を控えて～」は難しいテーマである。 民法改正により成人年齢が 18 歳に引き下げられ、これから環境が変わる。 青少年が ICT を使うことで犯罪に巻き込まれたり、ネットいじめも起きている。 こうした中 “ICT を社会で活躍するために活用する” には、使い方のバランスを取っていくことが大切である。 これを考えていくことは難しいことだと認識しているが、文部科学省としても関係省庁と連携しながら進めている。 本日は、難しいテーマであるが有意義な議論になることを期待している。</p> <p>消費者庁 消費者政策課長 内藤 茂雄 様 消費者庁は悪質商法の被害で困っている人が相談に来るところだが、最近、若い人たちがどのようにスマホや SNS を使っているかがよく分からないのが悩み。 先日のアンケートで「街で明らかに印象が悪い人に尋ねられたらどうするか？」という質問に若者の 3 割が、「立ち止まって聞いてあげる」と回答し、また「SNS だけで知り合った友達がいる」という回答も同じく 3 割あった。 こういう若者の行動は年配の人間にはなかなか理解されず、迅速なサポートができないので若者を狙った被害に遭わないよう自分でもしっかり注意してもらうことが大事だと思う。 例えば SNS の書き込みが半永久的に残ることで将来就職の際などに困ることがある。 そういう少し息苦しい社会の中でも頑張るといいうのも有りだし、もっと自由な環境のほうに変えていきたいといいうのも有りだと思ふ。 今日の熟議で、大人を唸らせるようなプレゼンや既存概念にとらわれないプレゼンをして欲しい。</p>
----	---

内閣府 政策統括官付 青少年環境整備担当 参事官付専門官 山本 正文 様

共生社会、助け合って生きる社会や青少年のインターネット利用環境づくりフォーラムを内閣府でやっており、各関係省庁と連携し、安心して青少年にICTやスマホを使って欲しいと考えている。562名から18名に選ばれた本日の高校生が若くて闊達な議論をし、イメージを具現化させて、我々に見せて欲しい。

経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 係長 大関 尚人 様

テーマであるICT活用法やスマホのことは高校生の方が我々より知っている。社会や授業では大人や先生が皆さんに教えるが、今日は皆さんが大人や先生にソリューションを示して欲しい。のびのび自信をもって議論して欲しい。

【各開催地域代表生徒の自己紹介、地域の取組の紹介（各3分）】 様

アイスブレイクとして各地域代表生徒が、今年度のテーマでの地域の熟議内容の報告を招待参加校は各地域での独自の取組の紹介を行いました。限られた時間の中で、代表の生徒は各地域でのそれぞれの取り組みの内容を上手に発表していました。

- ・札幌龍谷学園高等学校
- ・北海道釧路明輝高等学校
- ・仙台城南高等学校
- ・山形県立山形南高等学校
- ・茨城県立日立北高等学校
- ・神奈川県立藤沢清流高等学校
- ・新潟県立巻高等学校
- ・石川県立金沢北陵高等学校
- ・長野県松本深志高等学校
- ・静岡市立清水桜が丘高等学校
- ・愛知県立守山高等学校
- ・神戸学院大学附属高等学校
- ・奈良県立香芝高等学校
- ・サビエル高等学校
- ・高知県立伊野商業高等学校
- ・福岡県立中央高等学校
- ・東九州龍谷高等学校
- ・鹿児島情報高等学校
- ・福井県立金津高等学校（招待参加）
- ・沖縄県立南部商業高等学校（招待参加）

【グループ熟議・発表資料作成・リハーサル】

進行役の米田先生からファシリテーターの紹介があり、熟議内容の発表までのスケ

	<p>ジュール説明がありました。今回のグループ熟議は3つのグループに分かれて進められました。それぞれのグループで熟議の進め方やペースは違っていました。付箋を利用して模造紙に貼り付け、項目に分類しながら、役割分担も考えて各グループでそれぞれ工夫しながらまとめていきました。それぞれのグループで熱く議論が交わされました。</p> <p>「グループ熟議」の詳細については別紙「高校生 ICT Conference2018 サミット熟議録」をご覧ください。</p> <p>【グループ発表】</p> <p>各グループともプレゼンテーションソフトを活用して5分程度の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)</p> <p>グループA</p> <p>課題抽出に当たり、成年⇔未成年、大人⇔子ども、という視点に着目し、アプリの活用で便利な社会を作っていくことが必要だという提言をまとめました。</p> <p>グループB</p> <p>これまでのICT教育が、大人から高校生への一方通行であったという状況を踏まえて、高校生の知識や視点を活用し、大人と高校生が共同してテストを作成することを通して、ICT活用能力を持った人材を育てることが必要だという提言をまとめました。</p> <p>グループC</p> <p>目的意識の確立していない受動的なICTの使用では意味がないと指摘し、能動的な使用、自立精神の確立等が必要だという視点に立ち、災害時・緊急時の速やかな情報提供や、SNSの拡散力を活用していくという提言をまとめました。</p> <p>その後、参加生徒自身が、12月14日に開催される最終報告会代表校の選定投票を行い、長野県松本深志高等学校、大分県東九州龍谷高等学校が代表校に選出され、発表されました。</p>
日時：	2018年11月3日(祝) 13:00-17:00
場所：	株式会社内田洋行 東京ユビキタス協創広場 CANVAS (東京都中央区新川2-4-7)
参加人数：	熟議参加生徒 20人 見学者・関係者 81人(教員・教育関係者・その他) 合計 101人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【グループ名：A】7名

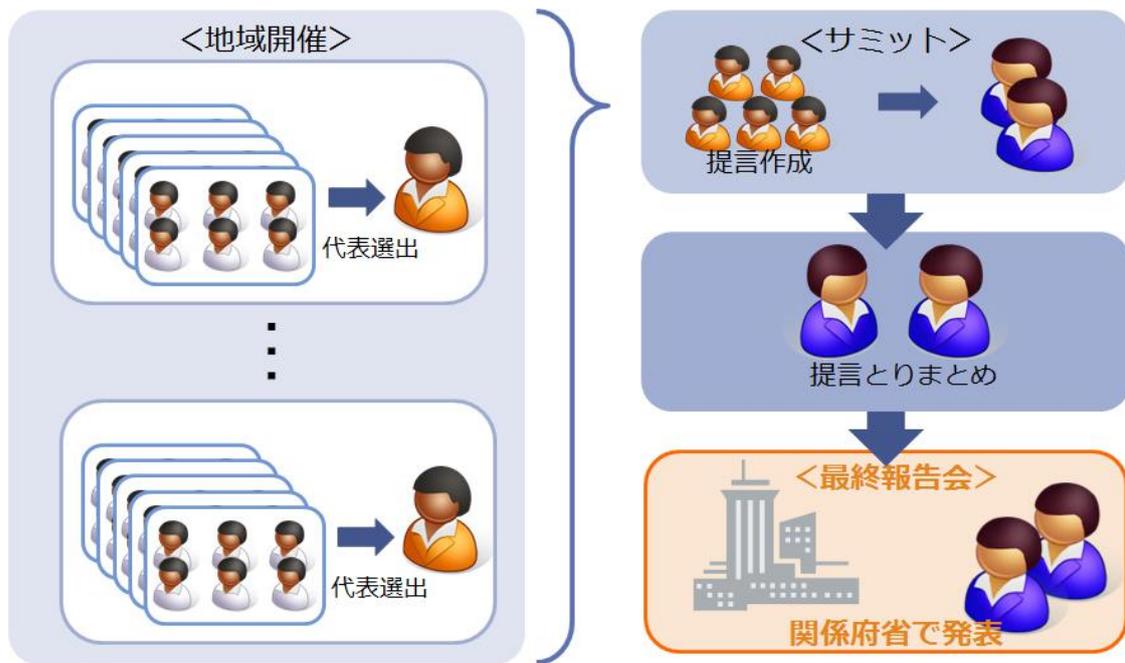
札幌龍谷学園高等学校	1年女子
仙台城南高等学校	2年男子
神奈川県立藤沢清流高等学校	2年女子
石川県立金沢北陵高等学校	3年女子
愛知県立守山高等学校	2年男子
高知県立伊野商業高等学校	2年女子
沖縄県立南部商業高等学校	3年女子
【グループ名：B】6名	
茨城県立日立北高等学校	3年女子
長野県松本深志高等学校	2年女子
静岡市立清水桜が丘高等学校	1年男子
神戸学院大学附属高等学校	2年男子
東九州龍谷高等学校	2年男子
鹿児島情報高等学校	2年女子
【グループ名：C】7名	
北海道釧路明輝高等学校	2年女子
山形県立山形南高等学校	2年男子
新潟県立巻高等学校	2年女子
奈良県立香芝高等学校	3年男子
サビエル高等学校	2年女子
福岡県立中央高等学校	2年男子
福井県立金津高等学校	3年女子

4. 主担当

高校生 ICT Conference2018 実行委員会	司会進行
安心ネットづくり促進協議会	事務局、庶務、撮影 等
草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会	庶務、受付 等
各団体、事業者等	挨拶、講演、ファシリテーター、記録 他

5. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2018 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



6. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2018 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2018 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以 上